

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価の調査項目です)

取り組んでいきたい項目

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしくあるがままに」を理念として市民センターを拠点とし、地域行事等の参加を行っている。またホーム前にある公園へ散歩に行くのが日課となっており地域の方々とふれ合いも行われている。よりホームを知っていただけるようにホームでの便りを今後、市民センターに置いていただける予定。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念を目のつくところに掲示し、ミーティングなどでも確認している。昨年より個別支援に力をいれ、各担当職員がその方の要望などを把握し支援方法を検討している。入居者それぞれの個性を大切に、尊重していくことで理念の実現に近づくと考える。入居者の心を大切にしよう取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、ホーム状況や取り組みについて報告を行っている。また、助言などいただき地域に密着したホーム作りに力を入れている。家族との連絡をしっかり行い行事などだけでなく、常に交流を図れる関係を目指している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の散歩では、声をかけていただけるようになった。ホーム行事などで参加者にホーム内見学をしていただくことを文章にし 近隣へ配布した。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加し、地域の方と交流に努めている。現在では、行事参加の声かけをしてくださり、地域の小学校行事や山笠飾り作り、神社でのお祭りなど定期的な参加の機会が増えている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	3月には地域の市民センターで行われた認知症フェスタに参加させていただき、もちつきを利用者や職員、家族とともに行い地域の方にお配りした。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価することにより、不足面を見直したり環境・介護する側の姿勢を正し向上心につながっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で行事や事業所内のサービス内容を報告し、助言をいただき今後のケアサービスに活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外でも、行事での協力依頼やボランティアの相談、広報誌の設置の件など協力していただき、サービスの質の向上につなげている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加したり、内部でも大学の講師を招き2ヶ月に一度成年後見制度について勉強している。その勉強会には家族や地域の方にも声をかけご参加いただいている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について間違った認識をもたないように日常的に注意を払い、内部勉強会をひらいたり、外部研修に参加するなどして防止に努めている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する前に、重要事項を説明ししっかり理解していただくよう努めている。理解しにくい部分については、その都度説明している。		
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員も、不満や苦情に関して傾聴するようにしているが、外部から介護サービス相談員に一ヶ月に一度来ていただき、職員に話しにくいことなどを聞いてもらうようにしている。		
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にご家族へは入居者の様子などを広報誌に載せて送るようにしている。また、健康面についてや必要な時にはその都度こまめに電話などで連絡をとるようにしている。		
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしたり、運営面に関する不満や苦情に関する個別での面談をできる機会を設けている。また、それらに対しては改善できるようミーティングなどで取り上げて対応している。		
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、随時管理者から運営者へ報告されるとともに、定期的な全体会議の中で情報交換をし、必要に応じて運営に反映させている。		
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	個別支援や行事、医療受診などの時には、必要な人員を確保している。入居者が入られたばかりの時なども、多めの職員で対応するようにしている。		
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にとどめるようにしているが、離職などの場合は、利用者へのダメージを防ぐために後任への申し送り期間を十分とるようにしている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の性別、年齢に関係なく採用している。また、定期的に面談をし、個々の持つ能力を発揮できるよう取り組んでいる。		
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングで理解を求めたり、内部・外部の勉強会に積極的に参加してもらっている。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験、段階に応じて多くの外部研修にも参加してもらい、資格取得のための配慮を行っている。また内部研修を定期的に行っている。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多くの外部研修会に参加することにより、他の同業者との交流の機会をもつことができている。また、同一法人の他のグループホームの運営推進会議への参加を行い、サービスの質の向上のための取り組みをしている。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	心身の状態に配慮し職員の近い存在で相談など気軽に受けられるように取り組んでいる。また、希望休を受け入れ、勤務時間も超過しないよう言っている。		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の状態(努力や実績)の把握に努め、目標、向上心を持って働けるように支援している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に面談し入居後もしっかり本人の想いをくみあげ、ケアプランに反映できるよう努めている。		
26	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の説明の際に、ご家族の困っている事、不安な事などを尋ね、説明を行い、出来る限り想いを共有させていただき、信頼関係を築けるようにしている。		
27	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、本人と家族がまず必要としている支援を確認し、事業所の中で可能なサービスを説明し、それ以上のことについては、どこまでが可能であるか地域の方や他の資源、サービスも検討しながら探っていくようにしている。		
28	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になんか馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族から以前の暮らしを情報収集し愛着や馴染みのあるものを持参していただきスタッフが仲介しながら雰囲気へ馴染んでいただけるよう見守っている。また必要に応じてご家族に泊まっていたりなど協力を求めることもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員は、料理、掃除、裁縫など教えていただく機会もある。また、今までの経験をお話して下さることもあり、職員にとっても大きな学びとなっている。		
30	○ 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとっては、職員よりもご家族が一番であることをご家族にも理解していただき、可能であれば面会や行事への参加、また精神的な支えとなっていたらお願いしている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	担当者会議や来園された際、行事などのお知らせをおこない、出席していただき共に過ごす時間をつくっている。また便りや手紙を通じ家族ともコミュニケーションを行っている。		
32	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	常時来園・面会できるようにしており、ご本人に楽しんでいる。また、馴染みの方との関係が途切れないよう行きたい所があれば支援している。		
33	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	コミュニケーションが困難な方でもトラブルがないように見守り状況に応じて対応し穏やかに過ごしていただいている。		
34	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	出会った先での声かけなど行っている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	他者との関係も考慮しその人らしくあるがままに生活できるようケアプランやミーティング等で検討し改善に努めている。		
36	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らしの情報把握に努めアセスメントでは記載していないことも、日々の会話やご家族とのコミュニケーションを通して情報を拾いケアへつなげている。		
37	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活の中でその方のペースに合わせできることを大切に、毎日が充実したものとなるよう見守り、ケアへつなげている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時や担当者会議でご家族の意向を聞き、本人の気持ちを大切に、また医療面から主治医より意見をいただき介護計画の作成に役立てている。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリング、カンファレンス、ミーティングなど問題について話し合いを行っている。また家族とも相談しご本人のための計画を作成している。介護計画の期間に関わらず、必要に応じて見直すこともある。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録を記入し、カンファレンスを行い情報の共有を行っている。また介護計画にそった支援が出来るよう努め、日々の情報は次の介護計画に活かすようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望される方には同一法人のデイサービスを利用していただきホーム外での交流、またリハビリなどの筋力維持のサポート等おこなっている。また、希望によりショートステイの受け入れも行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の行事を通しての地域との交流を図ったり、事業所内の行事へのボランティアの参加、市民センターでのふれあい昼食会やサークル活動への参加、避難訓練への消防署からの支援、所在地の中学校からの職場体験学習の受け入れなど、多くの協働がある。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	市民センターで開催されている昼食会やサークル活動など参加している。包括支援センター、市民センター等で助言をいただき検討している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事業所内で行われる権利擁護の勉強会へは地域包括支援センターの方へも参加を呼び掛け、それらを掲載した広報誌を設置させていただいた。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に説明し、ご家族納得のもと、併設の診療所をかかりつけ医として適切な医療を受け、他科受診の場合などはご家族の了承を得て受診している。また、ご希望があれば他の医療機関をかかりつけとすることも選択できる。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医への情報提供および診察にて必要に応じ認知症専門医の受診を受けられている。それぞれがよく連携がとれており、家族だけでなく職員の相談にも応じてもらっている。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が在籍しており日常の状態の把握、医師との連携をとっている。		
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時よりご家族の了承のもと、医療機関への連絡により状態の把握に努め、面会に行くことで安心していただいている。また、入院先の医療機関と相談の上、認知症がすすまなように早期退院をご家族とともに相談し、そのための受け入れ準備も看護師の配置やPTの訪問などできるように整えている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期について本人及びご家族へ定期的に意思確認を行っている。重度化・終末期段階においては主治医と連携を密にご家族とも細かな話し合いを行っている。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	昨年、看取りの支援を行った。今後も希望があれば状態変化に備えての検討や準備 またご家族との話し合いを密に行う。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームから住み替えをされる方には介護・医療の添書を作成し関係者への情報提供をおこなっている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人に合った言葉かけや対応を行い、個人情報の取り扱いには十分注意するよう指導している。		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の話を傾聴し、職員が声かけをするときは、わかりやすい言葉を使い入居者が自己決定により納得して生活できるよう支援している。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事への参加も強制ではなく、一日の流れも決まったものではなくその人の希望やペースにあわせ、入浴や活動をするなど思い思いに過ごしていただけるようにしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	整容できる方はご自分でしていただき、出来ない方も好みを取り入れられるよう配慮している。月に一度の美容師が訪問され髪型なども自由にされている。ご希望の方は、外部の美容室に行く事もある。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一緒に作ったり、つぎわけや配膳、片付けも入居者とスタッフとで行っている。メニューを立てる際も入居者の好みを取り入れている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒・喫煙希望者はいない。飲み物やおやつは希望を聞いたりして取り組んでいる。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	気持ちのよい排泄を支援できるよう、一人ひとりの排泄パターンを把握し、なるべくおむつやパットなどを使用せずに済むように、家族にも相談しながら行っている。また、排泄チェック表も作成している。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に応じて入浴できるようにしている。入浴時は個別対応となるので、情報収集の場となることもあり、コミュニケーションに努め楽しく過ごしていただけるよう配慮している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	リネン交換、室温調節を行い安眠していただけるようにしている。記録などで情報交換を行い、状況に応じて休息したり眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や園芸、買物や散歩などその方にあった役割を支援している。市民センターや郵便局の文化祭への作品出展にも取り組んでいる。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度の金額は管理できる方には ご家族の了承のもと所持していただいている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や意志を尊重して散歩やドライブ・外食などの外出を行っている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとにドライブや外食、地域のイベントへの参加、家族との外出、外泊がスムーズに行えるよう支援している。個別支援で温泉や買物に行く機会を設けている。		
65	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や要望があったとき電話をしたり手紙を出せるよう支援している。		
66	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	本人の馴染みの人たちどなたでも自由に来園され居室で過ごされたりフロアにて他入居者とコミュニケーションがとれる環境にある。面会時間は特に設けていない。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については事例を通し話し合いや勉強会を行い職員間で周知し、拘束をしないケアに取り組んでいる。		
68	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は掛けているが内部から入居者自身で開けることができ、自由に外に出られる。また 開放時チャイム連動するため確認も迅速に行うことができる。		
69	○ 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在や様子を把握し安全に配慮している。トイレ、浴室、居室内で気分不良を起こされていることもあり小まめな訪室が必要な場合プライバシーの配慮に対し充分考慮し行っている。		
70	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	倉庫(洗剤など保管している)などは鍵をかけて保管している。常時使用するものは目の届かない場所で保管している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的な内外の勉強会で知識を習得し事例をもとに話し合いの機会を作っている。災害については定期的な訓練を行っている。また、マニュアルも作成している。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、緊急時の対応など勉強会を行っている。消防署に依頼し、職員や家族とともに普通救命講習を開講してもらった。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、地域・家族に参加を呼びかけ訓練を行っている。避難訓練は消防署の指導により行っている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族に随時、日常の状態報告を行っている。その際に起こりうるリスク等も含め説明を行ったうえで抑圧感のない暮らしをしていただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックや状態観察、定期的な主治医の往診で体調管理を行っている。異常時は主治医への報告、指示をもらうなどの対応を行っている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容・服薬方法など、指示や処方箋を確認し周知を行っている。確実に服薬できるよう工夫している。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給や繊維質のものを取り入れて予防している。改善策としてその方に応じ飲み物や食べ物を提供している。又散歩や体操など身体を動かす機会を作っている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを実施。また口腔用品の消毒も実施している。必要に応じて歯科衛生士によるチェックや訪問歯科受診も行える。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状態に応じて食事・水分が摂れるよう形態を工夫したり摂取量の管理を行っている。献立はバランスよく考え、管理栄養士のチェックもお願いしている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアル作成、外部、内部の研修を行っている。ミーティングや周知ノートを使い各スタッフに再三周知を行っている。特に手洗い、うがい、換気を徹底し、予防接種も施行している。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は毎日消毒を行っている。食材はまとめて購入せず2日分を目安に購入し、新鮮で安全な食材を使用している。賞味期限の確認なども行い、冷蔵庫の掃除もこまめに行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関までの途中に勝手口があり、人が通ると声かけるようにしている。また生け物などの植物を植え、親しみやすい雰囲気をつくれるようにしている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースには生活の雑音は常に聞こえているが、その音により、今、何が起こっているのか 入居者の話題の提供になっている。季節感や常に取り入れて話題を提供している。夏は陽よけに窓辺に朝顔を植えたりもしている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者それぞれの過ごし方を考慮したソファの配置、また入居者同士が会話できるようなテーブル配置を工夫している。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にはご家族、ご本人の思い出深い家具や好みのも、写真などを持ち込んでいただき居心地よく過ごしていただけるように心掛けている。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気温との大差がないように、また空気のとどみがないように冬でも窓を開けたりして調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の不安定な方を廊下の手すりを使用しホーム内は見守りの下、自力歩行を促している。また居室内の家具の配置、障害になるような物の移動など ご本人と相談している。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の理解力を活かして、家事等の参加、散歩など あらゆる機会を通して自立して暮らせるように工夫している。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダ越しに道や公園が見えるのでより季節を通して楽しまれている。(山笠や日光浴など)また外周りに木や花を植えて定期的に入居者と管理している。通りはちょうど通学路でもあり、子ども達の様子を楽しんでいただいている。		

番号	項 目	取り組みの成果 (該当する番号欄に○印をつけること)	
・サービスの成果に関する項目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
		○	利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
		○	家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する番号欄に○印をつけること)	
		↓	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、活き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
		○	職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		○	家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない